

それは 天から 突然に…

がん哲学外来「ぬくみカフェ」
福岡ホスピスの会 代表 柴田須磨子

それは天から突然に降りてきたような出来事でした。一年半前某機関紙に、亡き娘についての寄稿依頼があり拙文ながら載せていただきました。その同じ号に聞き慣れない「がん哲学外来」が掲載されており、求め探していたものはまさにこれと、即出版社にお願いし樋野興夫先生との邂逅となりました。「もしかしたら、この時の為に」天国の娘がとりなしたご縁でした。福岡ホスピスの会（以後本会）は1997年に発足、現会員80名、当時精神科で看護師をしていた私は「グリーンケア」担当として関わることになり、20周年を迎えます。ホスピスを中心に養成講座や市民向けの勉強会（現104回）を重ね、閉鎖的な闘病生活の中に小さな風穴を開けられたらと、緩和ケア病棟や在宅での、話し相手や傾聴を中心にボランティア活動を続けております。昨年5月に産声を上げたがん哲学外来「ぬくみカフェ」ですが、そこに樋野先生のお姿はなく、出版本を頼りに試行錯誤の連続です。恥かしながら高齢者のわたしは、今一度初心に戻り「がん哲学外来コーディネーター」の講座を受講し、多くの先輩たちに学び「ぬくみカフェ」が暖かな寄り添える場として提供できればと参加を決めました。樋野先生が偉大な先駆者たちの生の遺産に生まれ生まれた「言葉の処方箋」のひとつかけらでも、「ぬくみカフェ」の栄養剤として戴きたいものでございます。

南九州初の「がん哲学外来シンポ」

ロサ リカコンディトルム 代表 宮地里加子

南九州初 がん哲学外来「ロサ リカコンディトルム」開設記念シンポジウム
特別講演 人生は百貨店のようなものだ ~状況の悪いときこそ明かす
講師 樋野 興夫 先生 (医学博士) 一般社団法人「がん哲学外来」理事長 (順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授)
定員 100名
日時 2017年2月9日(木) (受付)18:30 (開演)19:00
会場 宮崎観光ホテル

開設シンポジウム開催の一報を養成講座で一緒に学んだ方々より暖かいメッセージを頂戴し素晴らしい出逢いに感謝して当日を迎えた。天気予報では寒波と生憎の雨とのこと…、樋野先生からは「東京は雪」というメールが届いた。

当日はシンポジウムへの開設を祝ってか、或いは樋野先生が晴れ男なのか、晴天に恵まれて定員100名を超す満席の中、「エリザベートカフェ」原田さんが大阪より駆け付けて下さり進行役を引き受けて頂いた。そして初めてのシンポジウムは滞りなく閉会した。

後日、東村山カフェの大弥佳寿子さんよりメッセージを頂戴した。「カフェは人数の多い少ないの問題ではないですね。『一人の人のためにある』場所であれば、きっと継続されていきますよね…」、胸がいつぱいになり、熱いものがこみ上げてきた。同時に根木さんの笑顔も浮かんで来た。がん哲学外来コーディネーター同士の繋がり素晴らしい出逢いに感謝である。宮崎に定着、継続を目標に第2回メディカルカフェを3月5日に開催する。これからが本当のスタートだと思っている。



福岡ホスピスの会 20周年記念
がん哲学外来1周年記念
樋野興夫・公開講座

樋野興夫先生プロフィール

1954年島根県生まれ。医学博士。順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授。一般社団法人がん哲学外来理事長。米国アインシュタイン医科大学肝臓研究センター、米国フォックスチェースがんセンター、癌研実験病理部長を経て現職。2008年「がん哲学外来」開設。肝がん、腎がんの研究での功績が認められ日本癌学会奨励賞、高松宮紀癌研究基金学術賞などを受賞、第68回「保健文化賞」受賞。

2017年
5月28日(日)

第1部

13:00~14:30

九州がんセンター・講堂

「ぬくみカフェ」開催・樋野興夫先生・ミニ講話

対象：九州がんセンター入院患者・ご関係者様

お問い合わせ 092-541-8100 (10:00~16:00)

fax092-541-3390

無料 100人

第2部

15:15~17:00

カトリック大名町教会・一階ホール

15:15 shana Guitar & Ocarina 演奏

15:30~樋野興夫 公開講座

対象：一般 どなたでも

入場：1500円 要予約：200人

申し込み 振込先：ゆうちょ銀行

福岡ホスピスの会 01730・8・93581

お問い合わせ 090-1162-6395

『病気は人生の夏休み』

がん哲学外来とは—
医療現場と患者の間にある「隙間」を埋めるべく、「医師と患者が対等の立場でがんについて語り合う場」として開設されたのが「がん哲学外来」です。
「がん哲学外来」では、薬を処方したり、医学的な治療は一切しません。その代わり、面談に来られた患者さん一人ひとりに「言葉の処方箋」をお出しします。
*雨は誰にもひとしく降り注ぐ。違うのはその時の対応。
*病気は人生の夏休みと考えると、これまでやれなかったことに、時間を使ってみてはいかがでしょうか。

対談 「元ちゃんハウス」金沢市石引 4-4-10

イベントのお知らせ

2017年3月3日(金)18:30~(18:00開場)

元ちゃんハウスに、**がん哲学外来**の
樋野興夫先生がやって来ます!

がん患者と医療者のあいだにある溝、
どうやったら埋められる?

樋野興夫×西村元一



がん哲学外来研修センター (佐久市前山 321-3)

mail: kenkokobo@hb.tpl.jp

(編集発行責任者：星野 昭江)